

ただ今、ボランティア活動中!

日ごろから熱心にボランティアとして活動している
西区在住の4人の方にお話を伺いました。

福祉除雪ボランティア

おの 小野 民正さん(62)



平和地区で福祉除雪ボランティアとして、一人で6軒の高齢者宅を担当しています。スコップなどを使った手作業のため、朝から作業をしても、昼近くまでかかります。しかも、通院などの外出時間を利用者から事前に聞いておいて、その日の除雪の順番を変えるきめ細かい対応。健康だからできること。これまで町内でお世話になっていたが、何もしていなかったの」と謙虚に語る小野さん。ボランティアをするようになったのは、定年退職後何をしようか迷っていた時に、町内会から誘われたのがきっかけでした。

ありがたい一言がうれしい



▲除雪ボランティア作業中の小野さん

の方が長くなってしまいうちともあるとか。小野さんの訪問を楽しみに待っている高齢者も多いというのうなずけます。夕方には健康のためのウォーキングを兼ねて、町内の高齢者宅に電気がついているかなど「見守り」の活動も行っています。

★ボランティアを考えている人へのメッセージ★

4月からは、交通指導員のボランティアを始める予定の小野さん。「できることは遠慮しないでやってほしい。『ありがとうね』の一言はとてうれいしいものです」と話していました。

傾聴ボランティア

ひらの 平野 雄士さん(66)



「傾聴」という言葉をご存じですか。不登校・引きこもりの青少年から高齢者、がん患者、時には虐待の被害者の思いにじっと耳を傾け、受け止めるのが傾聴ボランティアです。平野さんは、札幌市ボランティア研修センター主催の平成17年度傾聴ボランティア養成講座の受講者たちが結成したグループ「アクティブ17」で活動しています。福祉関係の仕事の退職を機にこれまでの経験を生かして何かしたいと、カウンセリングなどの勉強を経て行き着いたのが傾聴ボランティアでした。平野さんは「相手の言いたいことを、どうやって引き出してあげられるか、相手の身になって絶対に否定しないで共感することが大切」と言います。

「聴く」ことで人を癒やしてあげたい



▲傾聴シンポジウムであいさつをする平野さん

昨年10月に傾聴をテーマにしたシンポジウムを開催したところ、定員をはるかに超える人が詰め掛けたそうです。傾聴に対する世の中の関心、反響の大きさに驚いたと言います。平野さん自身、相手が心の奥底に押し込めていたすべてを吐き出す瞬間に出会い、「聴く」ということの素晴らしさ、癒やしの効果を実感しているそうです。

★ボランティアを考えている人へのメッセージ★

ボランティアを始める前にはいろいろ調べた平野さん。「積極的に外に出て情報を集め、参加してほしい。きっと新しい自分に出会えるはずです」と話してくれました。

傾聴ボランティア
アクティブ17

連絡先：札幌市ボランティアセンター(次ページ参照)または長澤代表宅 Ⅱ(65)5588

北海道開拓の村ボランティアなど
石澤 純さん(75)



施設での高齢者や知的障がい者のお世話、北海道開拓の村ボランティアと、忙しく熱心に活動しています。開拓の村で昨年行われた行事「農村の一日」では、農夫に扮して昔の暮らしの寸劇に挑戦しました。



▲北海道開拓の村で農夫に扮した石澤さん

そんな石澤さんのボランティア歴は30年にも及びます。きっかけは、息子さんを病気で亡くし、ぼんやりしていた時期に、息子さんが入院していた病院にいた足が不自由な女の子を円山動物園に連れて行ったことでした。車いすから落ちそうになるくらい身を乗り出して動物を見る女の子の姿に感動したそうです。その後、全国を転勤しながら、障がい児のお世話、仕事忙しい時期には寄付

どんな状態であっても人間の尊厳を大事に

次ページへ続く